

崔 恩瑛 (チェ ウンヨン)

韓国出身

上智大学 文学部文学研究科新聞学専攻 修士課程

日韓のコロナ対応について

2019 年 10 月に武漢で発生したと知られているコロナ禍は、すでに 2 年 2 ヶ月が経ちました。東アジアはこの事態で世界的に模範的な対応を行ったと評価されています。

2021 年 10 月、家庭の事情で帰国することになりましたが、今回は韓国入国から日本入国までの全体流れを述べていきます。

■韓国入国まで

10 月時点で、韓国への入国は海外でのコロナワクチン接種完了者に対する韓国入国時の隔離免除措置を拡大・運営しています。「日本からの入国者については、10 月 1 日より隔離免除措置を再開する」との駐日本国大韓民国大使館の発表がありましたが、実際に隔離免除申請には一定条件を満たさなければなりませんでした。

ビジネス訪問、学術・公益目的、公務員の出張、人道目的(葬儀参加・直系家族訪問)などが隔離免除を受ける条件でした。さらに、2 回のワクチン接種証明書もしくは記録書とワクチン接種から 14 日以上経っていること、各種領事館の規定資料(隔離免除発行申請書・隔離免除同意書など)の提出が必要でした。領事館資料はオンライン申請も可能でしたが、2-3 日を要していました。

私は急な帰国になってしまいましたので、直

接領事館に訪問し、資料をもらい出国準備をしました。そのほかに PCR 検査陰性証明書が必要でした。日本の成田空港で予約する予定でしたが、当日予約は 5 万円、翌日以降の予約は 3 万円と高額でした。私は隔離免除者だったため韓国の空港では無料とのことを領事館に聞きましたので、日本では検査を受けずに領事館の隔離免除書を持って飛行機に乗り、韓国に出発しました。空港で PCR 検査後、韓国防疫規則には隔離免除書の管轄保健所への提出以外に、1 週間以内に管轄保健所での PCR 検査を求めています。韓国国内での PCR 検査は全て無料で行っていました。陰性証明書も韓国語での発行なら無料で、午前検査は午後結果をもらえ、午後検査は翌日朝にももらえる仕組みになっていました。韓国国内では、どの施設に入るにも次に挙げるいずれかの方法で訪問記録を残します。

①QR コード読み取り

(個人認証済みのカカオトーク、もしくはnaverでの発行QRコード)

②電話をかけて認証する方法

③訪問帳(電話番号、地域、訪問時刻を記入)

コロナ感染者が発見された場合は、同じ時間に訪問した訪問者の 14 日の隔離が行われることとなります。また、1 日 1 回、住む地域の感染者数が電話に通知されます。コロナの感染者が、毎日 2000 人前後がある割には、コロナ前

と比較し、都市部の人混みは変わらない感じがありました。

ニュースでは 11 月 21 日時点までの韓国感染者数の 85%が 2 回ワクチン接種者であることによく言及があり、ワクチン効果については全体的に期待していない感じがしました。

■日本に戻るまで

韓国国内ではビジネスでの出国が多く、個人での出国は少ないため、出国の準備資料などについての情報共有が少なかったです。日本入国のためには PCR 検査陰性証明書が必要でしたが、所定形式があり、さらに英語での病院証印がある証明書でなければいけません。管轄地域の保健所での韓国語の陰性証明書は、出国もしくは日本入国のための資料として認められていません。出国用の英語 PCR 陰性証明書の発行は 15,000 円前後の料金がかかります。

日本に入国してからは、さらにもう 1 回 PCR 検査と、14 日間の隔離・隔離監視のためのアプリ説明が 2 時間ほど実施されました。

■両国のコロナ対応について

韓国は、PCR 検査の利便性とアプリでの確認通知、各店舗・施設の QR コードによる受付管理で、一般生活でのコロナ対策がしっかりできていて、一旦感染者が発見された場合は接触者の管理がよくできる利点がありました。しかし、アプリの使用についての説明がされておらず、お年寄りには理解できない・使用しづらいという不便性も存在しました。さらに、各店舗・施設に入る時に行う電話番号など個人情報の記入は、個人情報漏洩事故につながる可能性・

嘘の電話番号が記入される可能性があるうえ、記入に時間がかかるため、入店時の渋滞にも繋がります。

日本は、入国時の再 PCR 検査により保菌者の選別が厳しく行われていました。検査を実施する間、隔離期間に使用されるアプリの説明と、現在地・移動ルートの確認ができるようにスマートフォンでの設定を行いました。そのおかげで、関連アプリの使用方法は熟練され、入国 4 日目でも不便なく使用しています。唯一の不備といえば、隔離場所登録を個人で行うので、規定の公共手段を使用して隔離場所まで移動したのかの確認ができないことです。

当然ではありますが、日本では、国内在住の人には特に制限をかけない一方、外国からの入国者には厳しい規定を設けている印象です。日本も韓国もコロナ対応については世界的に模範生ではありますが、さらにお互いの良い対応を受け入れればもっと完璧にコロナと向き合えるのではないかと思いました。突然の帰国ではありましたが、今回の 1 ヶ月帰国はコロナの中での異なる社会の比較もでき、一度しかない忘れられない経験と通じて、人生の新しい段階に入る糧になったと思います。

以上